

歴史的街区における街路空間の構成に関する研究

－あふれ出しがみられる環境空間特性－

日大生産工（院） ○佐藤 仁美

日大生産工 宮崎 隆昌

1. はじめに

1-1. 研究背景と目的

我が国における居住環境・ライフスタイルは、高度経済成長によって大きく変化していった。住宅はプライバシーのみを重視するようになり、外部との関わりを断つようになっていった。その結果、住宅と街路はつながりをなくし、街路は人々の交流・滞留の場としての意味を失い、近隣の住民同士による相互扶助の関係は薄れていった。

街路の意味・機能が変化していったにも関わらず、歴史的街区には未だに街路空間で地域や近隣社会との多様なつながりが残っていると考えられている。そこには地域や近隣社会との多様なつながりを形成する要素としてのあふれ出しが存在していた。青木ら¹⁾²⁾によるあふれ出し^{注1)}の定義を前提とし、研究を行う。

そこで本研究では、歴史的街区における地域コミュニティを維持させている装置である街路上のあふれ出しに着目し、あふれ出しが発生する環境空間構成を明らかにすることを目的とする。

1-2. 既往研究と本研究の位置付け

地域コミュニティにおける領域に関する研究として、青木ら¹⁾²⁾の研究挙げられる。青木らは路地のあふれ出しが路地空間利用行為を活性化し、結果的に路地居住者間のコミュニケーションの機会を増大させると示唆している。

本研究では、歴史的街区における街路空間を対象とし、コミュニケーションのきっかけとなるあふれ出しが行われる街路空間の構成を通じて、持続可能な地域社会を形成する仕組みを明らかにすることを意図している。

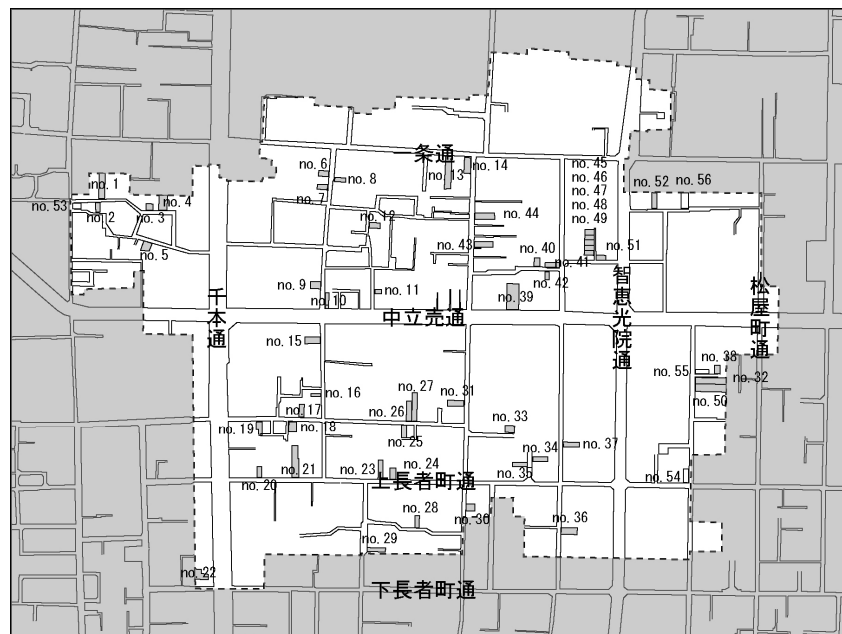


Fig. 1 研究対象地

The study about construction of Street space in a historic block Area.

-Environmental space characteristic of Street where private use exist-

Hitomi SATO , Takamasa MIYAZAKI

2. 研究概要

2-1. 対象地域

歴史的に道空間と生活とが深く関わりを持っている地区として京都が挙げられる。地域生活と深い関係性を持つ歩行路としての街路空間が形成され、1000 年以上も街路を中心とした生活が営まれてきた。本論文では、京都市上京区的一条通～下長者町通・千本通～松屋町通で囲まれた範囲に嘉楽小学校が廃校となって編入した笹屋町2丁目と北伊勢殿構町が含まれた、正親学区に多数存在する街路を対象とし分析を行う (Fig. 1)。

2-2. 調査方法

2007 年 9 月 3～7 日の 5 日間、研究対象地内の街路における住宅前面のあふれ出しの書き取り、街路に接する建物 1 階部分のファサード写真撮影を行った。これらのデータを分析に用いる。

2-3. 研究方法

共有空間である街路へのあふれ出しは、街路に置かれているため直接居住者以外の人とも関わり、住宅敷地内に出ているあふれ出しよりもコミュニティ活性化の可能性があると考えられる。正親学区内の街路へあふれ出しを出している住宅 56 軒の街路上あふれ出しを対象とし、以下の方法で研究を進めてゆく。

1. 住宅－街路間の空間構成による分類
2. 街路へのあふれ出し方による分析
3. あふれ出し個数による分析

なお、本稿では住宅と街路の境界を縁石（縁石上は住宅の敷地とする）とし、あふれ出しの位置を確認してから研究を行っている。

3. 住宅－街路間の空間構成による分類

本稿では街路にあふれ出しが現れる環境を、住宅－街路間の空間構成に着目し、分類を行う (Tab. 1)。

住宅－街路までの空間を以下の 4 パターンに分類する (Fig. 2)。

- 1) スペース有り：住宅が街路からセットバックし、住居－街路間に空間が確保されている。
- 2) スペース無し：住宅と街路が直接面していて、住居－街路間に空間無し。
- 3) 塀、垣根、柵：住宅と街路の間に塀、垣根、柵などが設置されている。
- 4) 階段：住宅と街路の間に階段があり、レベル差が生じている。

スペース有りは 34 軒、スペース無しは 12 軒、塀、垣根、柵は 6 軒、階段は 2 軒、塀、垣根、柵&階段は 2 軒みられ、全体数からすると、スペース有りが 61%、スペース無しが 22%、塀、垣根、柵が 11%、階段が 3%、塀、垣根、柵と階段の混合が 3%となる。

あふれ出しが現れている住宅の中でもっと多くみられた、住宅－街路間に空間がある住宅 34 軒に着目し、分析を行っていく。

Tab. 1 住宅－街路間空間構成表

住宅no.	住宅－街路空間構成	住宅no.	住宅－街路空間構成
1	1	29	1
2	1	30	1
3	2	31	1
4	1	32	1
5	1	33	1
6	1	34	3
7	1	35	3
8	1	36	3&4
9	1	37	3
10	1	38	4
11	3	39	1
12	2	40	1
13	1	41	3
14	1	42	1
15	1	43	1
16	1	44	1
17	1	45	1
18	1	46	1
19	4	47	2
20	1	48	2
21	3&4	49	2
22	2	50	1
23	2	51	2
24	2	52	3
25	1	53	1
26	2	54	1
27	1	55	2
28	2	56	1

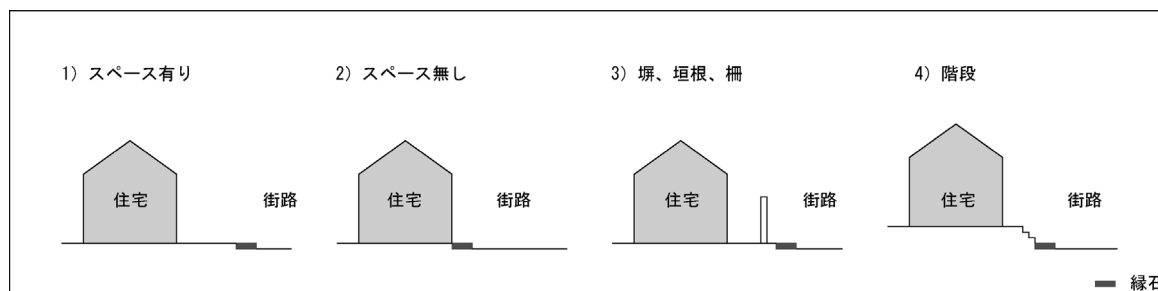


Fig. 2 住宅－街路間空間構成のパターン

4. 住宅－街路間にスペースがある住宅のあふれ出し分析

4-1. 街路へのあふれ出し方による分析

前項で分類された住居の街路へのあふれ出し方について分析してゆく。

あふれ出し方を以下の 3 通りに分類する (Fig. 3)。

- 1) 延長型：敷地内に存在する住居からのあふれ出しの延長として、街路上にあふれ出てくるもの。
- 2) はみ出し型：敷地内に発生したが、サイズ上の問題で街路へはみ出すもの。
- 3) 独立型：敷地内にあふれ出しは存在せず、住宅から独立した形で発生しているもの。

延長型が 21 軒、はみ出し型が 9 軒、独立型が 4 軒みられ、全体数からすると、延長型が 62%、はみ出し型が 26%、独立型が 14%となる。このことから、あふれ出しは、単独で発生するよりも、連続して発生する傾向が強いと考えられる。

4-2. あふれ出し個数による分析

あふれ出しが多く存在するということは、あふれ出しを利用する行為も多いということになるため、居住者間のコミュニケーションが生まれやすいと考えられる。そこで、あふれ出しの個数に着目し分析を行う。

4-2-1. あふれ出し個数とあふれ出し方の関係

あふれ出し個数をあふれ出し方の面から検討する。あふれ出し方パターンそれぞれの平均あふれ出し個数を求め、分析を行う (Tab. 2)。

平均あふれ出し個数は延長型が 3.38 個、はみ出し型が 1.11 個、独立型が 1.50 個となった。

このことから、あふれ出しが延長型の場合、他のあふれ出し方よりも多くあふれ出しが生じると考えられる。

4-2-2. あふれ出し個数と接する道路種類の関係

あふれ出しが生じる街路を通り抜けと行き止まりの 2 通りに分類する。34 軒中 31 軒が通り抜けの街路に面し、3 軒が行き止まりの街路に面している。

これら 2 種類の街路に面する住宅からのあふれ出しを、街路種類別に平均あふれ出し個数を求め、分析を行う (Tab. 3)。

平均あふれ出し個数は、通り抜けの街路が 2.61 個、行き止まりの街路が 2.00 個となった。

このことから、通り抜けの街路は行き止まり街路よりあふれ出しが多いと考えられる。

Tab. 2 あふれ出し方とあふれ出し個数の関係

住宅no.	あふれ出し方	あふれ出し個数
1	1	1
2	1	1
4	2	1
5	1	1
6	1	1
7	1	2
8	1	2
9	1	6
10	1	8
13	2	1
14	3	1
15	1	1
16	1	2
17	2	1
18	1	1
20	1	1
25	2	1
27	1	1
29	1	6
30	1	2
31	1	2
32	2	1
33	1	1
39	2	1
40	3	1
42	1	22
43	2	1
44	1	4
45	2	2
46	3	3
50	2	1
53	1	3
54	1	3
56	3	1

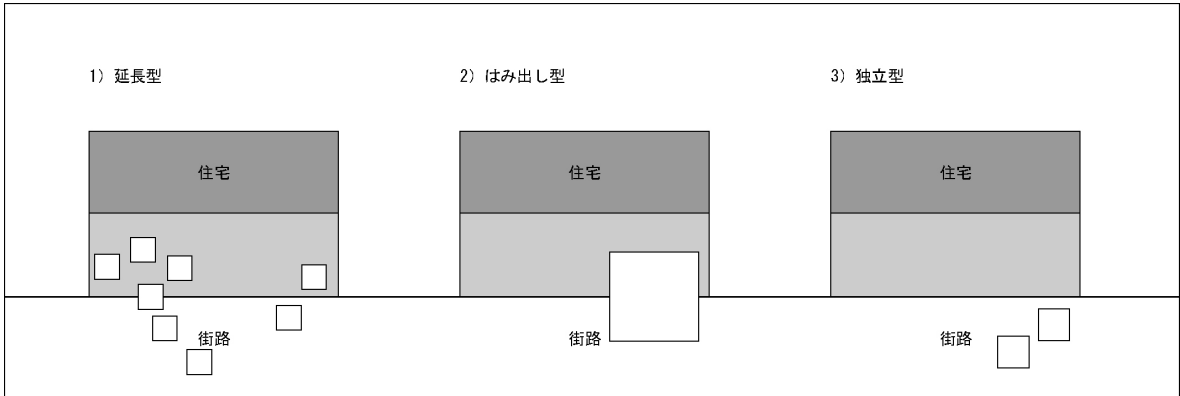


Fig. 3 あふれ出し方パターン

Tab. 3 あふれ出し個数と街路の種類の関係

住宅no.	あふれ出し個数	街路の種類
1	1	通り抜け
2	1	通り抜け
4	1	通り抜け
5	1	通り抜け
6	1	通り抜け
7	2	通り抜け
8	2	通り抜け
9	6	通り抜け
10	8	通り抜け
13	1	通り抜け
14	1	通り抜け
15	1	通り抜け
16	2	通り抜け
17	1	通り抜け
18	1	通り抜け
20	1	通り抜け
25	1	通り抜け
27	1	通り抜け
29	6	通り抜け
30	2	通り抜け
31	2	通り抜け
32	1	通り抜け
33	1	行き止まり
39	1	通り抜け
40	1	通り抜け
42	22	通り抜け
43	1	通り抜け
44	4	通り抜け
45	2	行き止まり
46	3	行き止まり
50	1	通り抜け
53	3	通り抜け
54	3	通り抜け
56	1	通り抜け

4. まとめ

本研究では、地域コミュニティを維持させている街路上のあふれ出しに着目することにより、あふれ出しが発生している環境空間構成の把握を行った。

分析結果より得られた知見を以下にまとめる。

- 1) あふれ出しは、単独で発生するよりも、連続して発生する傾向が強いと考えられる。
- 2) あふれ出し延長型ははみ出し型、独立型よりも多くのあふれ出しを生じさせると考えられる。
- 3) 通り抜けの街路は、行き止まりの街路より、あふれ出しを多く発生させると考えられる。
- 4) 2)3)より、通り抜けの街路に面し、あふれ出しが敷地内のあふれ出し方が延長型であると、あふれ出しが多く現れやすく、街路上での居住者コミュニケーションの機会は増加するといえる。

5. 今後の課題

本稿はあふれ出しを出している住宅から街路までの空間構成に着目し、研究を行った。しかし、今回はその中でも住宅から街路の間に空間がある住居のみに焦点を絞って研究を行ったので、今後はその他の空間構成の住宅も分析していく必要があると考えられる。

また、あふれ出しは住宅と街路だけでなく近隣住居にも接している。本稿でわかったようにあふれ出しが連続して発生する傾向があるのならば、近隣住居のあふれ出しの影響によって、住宅のあふれ出しが触発されて出てくとも考えられる。そのため、住居周辺環境も考慮に入れて研究を進めていきたいと考える。

注釈

注 1) 青木らは通常、私的物品として住戸内に置かれるもので、主に交通以外の目的で設置された物品類を「あふれ出し」と総称している。

参考文献

- 1) 青木義次，湯浅義晴：開放的路地空間での領域化としてのあふれ出し—路地空間へのあふれ出し調査からみた計画概念の仮説と検証—その 1，日本建築学会計画系論文集，No. 449，(1993. 7)，pp. 47-55.
- 2) 青木義次，湯浅義晴：あふれ出しの社会心理学的効果—路地空間へのあふれ出し調査からみた計画概念の仮説と検証—その 2，日本建築学会計画系論文集，No. 457，(1994. 3)，pp. 125-132.
- 3) 小林秀樹，鈴木成文：集合住宅における共有領域の形成に関する研究—その 1，日本建築学会計画系論文集，No. 307，(1981. 9)，pp. 102-111.
- 4) 金栄爽，高橋鷹志：密集市街地の「住戸郡」における路地と隙間の役割に関する研究，日本建築学会計画系論文集，No. 469，(1995. 3)，pp. 87-97.
- 5) 松本直司，山本孝司：都市住宅地における街路空間の構成と方位の関係について，日本建築学会大会学術講演概要集，(1981. 9)